



平成31年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年11月13日

上場会社名 ワイエスフード株式会社
 コード番号 3358 URL <http://www.ys-food.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 緒方 正憲

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 岩下 征吾

TEL 0947-32-7382

四半期報告書提出予定日 平成30年11月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	892	4.2	53		51		57	
30年3月期第2四半期	856	4.2	34		41		45	

(注) 包括利益 31年3月期第2四半期 83百万円 (%) 30年3月期第2四半期 35百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	14.76	
30年3月期第2四半期	11.85	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第2四半期	3,743	1,518	40.6
30年3月期	3,765	1,602	42.5

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 1,518百万円 30年3月期 1,602百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		0.00			
31年3月期		0.00			
31年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,793	4.7	51		42		135		35.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(平成30年11月13日)公表いたしました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期2Q	3,873,000 株	30年3月期	3,873,000 株
期末自己株式数	31年3月期2Q	株	30年3月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期2Q	3,873,000 株	30年3月期2Q	3,873,000 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益や雇用環境が改善され、緩やかな回復基調にあるものの、国内の生活物価の上昇や国外における政治・経済の不透明感の増大などにより、依然として先行き不透明な状況が続いております。

外食産業におきましても、多様化する消費者志向に対応すべく、同業種はもとより他業種からの参入が続いており、原材料価格の高騰や人手不足を背景とする人財コスト及び物流コストの上昇等、引き続き厳しい状況となっております。

このような状況の中、当社及び当社グループにおきましては、「一杯のラーメンをお客様に満足していただく」という創業当時の理念にのっとり、「美味しさと快適な食の空間」の追求、「食の安心・安全」の維持向上に取り組む、お客様一人一人に誠実であり続けることに、より一層邁進してまいるとともに、過去の成功体験に依存することなく、市場動向に合わせ、既存事業の運営体制の見直しによる収益構造の改善及び新規事業の創出、新規市場への進出を進めると同時に、外食事業におきましては、既存ブランドである「山小屋」「ばさらか」とは異なるオリジナルブランドでの出店を実行する等、従来の枠にとらわれない事業領域の再構築を進めてまいりました。

なお、当第2四半期連結会計期間におきましては、平成30年7月豪雨や台風の集中上陸の影響もあったものの、平成30年9月14日～同年10月14日の期間、バイキング小峠氏とのコラボ企画としてオリジナルラーメンの販売やSNSを活用した販促活動を実施したことにより、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比4.2%増の892百万円となりました。

営業利益におきましては、福岡県福岡市西区に「ラーメン酒場 やまごや」及び「YAMECHA-CAFE 一茶」の2店舗を出店、さらに福岡県田川郡において『山小屋 創業店』のリニューアルオープンによる費用の影響があったことから、営業損失53百万円（前年同期は営業損失34百万円）、経常損失51百万円（前年同期は経常損失41百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失57百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失45百万円）となりました。

報告セグメントの業績は次のとおりであります。

（外食事業）

当第2四半期連結累計期間におきましては、新規顧客獲得と既存顧客のリピート率向上を図るため、「餃子190円」及び「餃子半額」に加え、バイキング小峠氏とのタイアップ企画となる「小峠ラーメン」といった販促セールを実施する等、店舗売上高及び食材出荷の増加に努めてまいりましたが、平成30年7月豪雨や台風の集中上陸、記録的猛暑といった天候不順に加え、人手不足を背景とする営業時間の短縮等が起因となる店舗売上高及び食材取引高の減収となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は764百万円（同0.4%減）となり、営業損失0百万円（前年同期は営業利益22百万円）となりました。

なお、当第2四半期連結会計期間末の店舗状況は、前連結会計年度末に比べ7店舗減少し155店舗（直営店7店舗、F C店101店舗、海外47店舗）となりました。店舗数の増減については、9店舗（直営店2店舗、F C店2店舗、海外5店舗）の新規出店及び、中途解約による店舗の閉店16店舗（F C店10店舗、海外6店舗）であります。

（不動産賃貸事業）

当社が所有する店舗用地等の有効活用を目的とした賃貸事業を行っており、当第2四半期連結累計期間の売上高は31百万円（同4.6%減）となり、営業利益16百万円（同4.4%減）となりました。

（外販事業）

ラーメン等の製品を主要販売品目とする外販に加え、インターネット通販サイトにおける通信販売及び一般小売先向け卸し、委託販売による小売りを行っております。当第2四半期連結累計期間における外販事業の売上高は83百万円（同201.9%増）となり、営業損失23百万円（前年同期は営業損失21百万円）となりました。

（美容・健康事業）

連結子会社株式会社日本美容研究所が取り扱うプライベートブランドを用いて、国内外におけるファスティングスタジオの事業展開を進めております。また、同社の美容関連・健康食品両分野において、コールセンターを用いての販売促進を行うと同時に、インターネット通販サイトにおける通信販売およびドラッグストア・免税店等の一般小売先向け卸し、委託販売による小売りを行っております。

なお、当第2四半期連結累計期間における美容・健康事業の売上高は9百万円（同77.3%増）となり、営業損失7百万円（前年同期は営業損失18百万円）となりました。

（その他）

当社は、飲食店用の厨房設備の販売を、FC加盟店などに行っております。

連結子会社株式会社Zing'sは、デザイン事業を行っております。

当第2四半期連結累計期間におけるその他事業の売上高は3百万円（同86.4%減）となり、営業損失7百万円（前年同期は営業損失0百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は831百万円となり、前連結会計年度末に比べ4百万円増加いたしました。

これは主に、前連結会計年度において国土交通省との間で当社の敷地を譲渡する土地売買契約を締結し、当該譲渡価額を含む未収入金（流動資産その他に含まれる）が58百万円が減少したものの、現金及び預金が53百万円、さらに、流動資産その他の含まれる前払費用が10百万円増加したこと等によるものであります。

また、固定資産は2,912百万円となり、前連結会計年度末に比べ27百万円減少いたしました。

これは主に、有形固定資産が28百万円増加したものの、投資有価証券が41百万円及び無形固定資産が8百万円並びに敷金及び保証金が8百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、総資産は3,743百万円となり、前連結会計年度末に比べ22百万円の減少となりました。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は1,012百万円となり、前連結会計年度末に比べ38百万円減少いたしました。これは主に、買掛金が34百万円減少したこと等によるものであります。また、固定負債につきましては、長期借入金の純増等の理由から、前連結会計年度末に比べ100百万円増加し、1,212百万円となりました。

この結果、負債合計は2,225百万円となり、前連結会計年度末に比べ61百万円の増加となりました。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は1,518百万円となり、前連結会計年度末に比べ83百万円減少いたしました。これは主に、四半期純損失が57百万円であったことにより利益剰余金が57百万円減少したこと及びその他有価証券評価差額金が27百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、自己資本比率は40.6%（前連結会計年度末は42.5%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ38百万円増加して379百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、支出した資金は53百万円（前年同四半期連結累計期間は31百万円の支出）となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純損失54百万円の計上等があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、支出した資金は26百万円（前年同四半期連結累計期間は75百万円の支出）となりました。

これは主に、有形固定資産の売却による収入が51百万円及び敷金及び保証金の回収による収入が8百万円あったものの、有形固定資産の取得による支出が58百万円に加え、資産除去債務の履行による支出11百万円及び定期預金の増加が15百万円あったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、獲得した資金は118百万円（前年同四半期連結累計期間は151百万円の獲得）となりました。

これは主に、長期借入金の支出が281百万円あったものの、長期借入れによる収入が400百万円あったことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績予想につきましては、平成30年5月15日に公表いたしました業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日（平成30年11月13日）公表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	398,672	452,107
売掛金	168,970	146,256
商品及び製品	108,761	110,526
仕掛品	5,440	1,732
原材料及び貯蔵品	14,366	15,634
その他	143,844	125,014
貸倒引当金	△13,131	△19,370
流動資産合計	826,925	831,900
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	883,240	906,373
機械装置及び運搬具(純額)	22,621	25,620
土地	1,534,051	1,534,051
その他(純額)	7,874	10,690
有形固定資産合計	2,447,788	2,476,736
無形固定資産		
その他	68,292	59,783
無形固定資産合計	68,292	59,783
投資その他の資産		
投資有価証券	179,700	138,387
繰延税金資産	778	656
敷金及び保証金	110,941	102,852
その他	237,772	241,368
貸倒引当金	△106,217	△107,754
投資その他の資産合計	422,976	375,510
固定資産合計	2,939,056	2,912,030
資産合計	3,765,981	3,743,931

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	115,551	81,145
短期借入金	200,000	200,000
1年内返済予定の長期借入金	481,003	492,968
未払法人税等	9,774	7,862
賞与引当金	9,488	9,074
ポイント引当金	561	346
その他	235,126	221,595
流動負債合計	1,051,506	1,012,992
固定負債		
長期借入金	808,866	915,504
退職給付に係る負債	65,560	62,784
役員退職慰労引当金	54,255	56,093
資産除去債務	56,073	70,314
その他	127,564	107,926
固定負債合計	1,112,320	1,212,623
負債合計	2,163,827	2,225,615
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,002,050	1,002,050
資本剰余金	831,588	831,588
利益剰余金	△280,297	△337,488
株主資本合計	1,553,341	1,496,150
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	50,633	23,212
為替換算調整勘定	1,544	△98
退職給付に係る調整累計額	△3,364	△948
その他の包括利益累計額合計	48,812	22,165
純資産合計	1,602,154	1,518,315
負債純資産合計	3,765,981	3,743,931

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	856,451	892,601
売上原価	449,855	475,834
売上総利益	406,595	416,766
販売費及び一般管理費	441,128	470,708
営業損失(△)	△34,532	△53,942
営業外収益		
受取利息	2,571	2,712
受取配当金	160	957
違約金収入	1,178	7,278
その他	2,594	7,044
営業外収益合計	6,505	17,993
営業外費用		
支払利息	7,028	7,120
持分法による投資損失	2,454	215
貸倒引当金繰入額	769	4,756
その他	3,058	3,533
営業外費用合計	13,310	15,625
経常損失(△)	△41,338	△51,574
特別利益		
固定資産売却益	427	—
特別利益合計	427	—
特別損失		
固定資産除却損	370	—
減損損失	2,200	2,653
特別損失合計	2,571	2,653
税金等調整前四半期純損失(△)	△43,481	△54,227
法人税、住民税及び事業税	2,281	2,840
法人税等調整額	122	122
法人税等合計	2,403	2,963
四半期純損失(△)	△45,885	△57,191
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△45,885	△57,191

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
四半期純損失(△)	△45,885	△57,191
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,457	△27,421
退職給付に係る調整額	891	2,416
持分法適用会社に対する持分相当額	1,204	△1,642
その他の包括利益合計	10,554	△26,647
四半期包括利益	△35,331	△83,838
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△35,331	△83,838
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△43,481	△54,227
減価償却費	50,734	48,767
減損損失	2,200	2,653
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	345	7,776
賞与引当金の増減額 (△は減少)	360	△414
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	1,831	1,838
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	1,046	△359
受取利息及び受取配当金	△2,732	△3,670
支払利息	7,028	7,120
持分法による投資損益 (△は益)	2,454	215
売上債権の増減額 (△は増加)	28,993	22,714
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△18,863	675
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,091	△34,405
その他	△51,526	△43,062
小計	△22,701	△44,379
利息及び配当金の受取額	2,469	3,907
利息の支払額	△7,037	△7,150
法人税等の支払額	△4,642	△5,600
営業活動によるキャッシュ・フロー	△31,910	△53,223
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	△15,006	△15,004
有形固定資産の取得による支出	△20,713	△58,179
無形固定資産の取得による支出	△16,289	—
有形固定資産の売却による収入	12,295	51,599
貸付けによる支出	△18,500	△1,700
貸付金の回収による収入	3,876	5,455
資産除去債務の履行による支出	—	△11,675
敷金及び保証金の差入による支出	△1,418	△286
敷金及び保証金の回収による収入	2,850	8,447
保険積立金の積立による支出	△7,345	△4,617
関係会社株式の取得による支出	△14,474	△0
その他	△660	△792
投資活動によるキャッシュ・フロー	△75,386	△26,751
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	450,000	400,000
長期借入金の返済による支出	△279,409	△281,396
配当金の支払額	△19,345	△197
財務活動によるキャッシュ・フロー	151,244	118,405
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	43,947	38,430
現金及び現金同等物の期首残高	562,237	341,142
現金及び現金同等物の四半期末残高	606,184	379,572

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自平成29年4月1日 至平成29年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	外食事業	不動産 賃貸事業	外販事業	美容・ 健康事業	計				
売上高									
(1)外部顧客に対する 売上高	767,973	33,225	27,551	5,632	834,383	22,068	856,451	—	856,451
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	28	166	—	—	194	722	916	△916	—
計	768,001	33,392	27,551	5,632	834,578	22,790	857,368	△916	856,451
セグメント利益 又は損失 (△)	22,624	17,404	△21,577	△18,987	△535	△493	△1,028	△33,504	△34,532

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食店用の厨房設備の販売、デザイン事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△33,504千円には、セグメント間取引消去415千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△33,919千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「外食事業」セグメントにおいて、閉店店舗に係る建物等について、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において、2,200千円であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	外食事業	不動産 賃貸事業	外販事業	美容・ 健康事業	計				
売上高									
(1)外部顧客に対する 売上高	764,725	31,710	83,175	9,987	889,599	3,001	892,601	—	892,601
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,516	166	77	6	1,765	50,228	51,994	△51,994	—
計	766,242	31,876	83,252	9,993	891,364	53,230	944,595	△51,994	892,601
セグメント利益 又は損失(△)	△839	16,642	△23,496	△7,912	△15,606	△7,671	△23,277	△30,664	△53,942

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食店用の厨房設備の販売、デザイン事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△30,664千円には、セグメント間取引消去△1,245千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△29,419千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「外食事業」セグメントにおいて、閉店店舗に係る建物等について、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において、2,653千円であります。

（重要な後発事象）

（固定資産の譲渡）

当社は平成30年6月18日開催の取締役会において、下記の通り固定資産の譲渡について決議し、平成30年6月28日付で「不動産売買契約」を締結し、平成30年10月29日に譲渡しました。

(1) 譲渡の理由

資産の効率的運用を図るため、当該固定資産を譲渡することといたしました。

(2) 譲渡資産の内容

- ①譲渡資産 土地付建物
- ②所在地 北九州市小倉北区魚町一丁目
- ③土地 宅地：303.00㎡
- ④建物 延床面積：556.50㎡ 用途：店舗・倉庫
- ⑤譲渡益 約186百万円

※本件における譲渡先は、国内法人1社ですが、譲渡先との取り決めにより開示を控えさせていただきます。なお、譲渡先と当社、その他当社の関係会社との間には特記すべき資本関係、人的関係、取引関係はありません。また、当社の関連当事者には該当しません。

(3) 譲渡の日程

- ①取締役会決議日 平成30年6月18日
- ②契約締結日 平成30年6月28日
- ③物件引渡 平成30年10月29日